

平成26年第1回定例会・一般質問

豪雪による被害と今後の対応について

若者に選ばれるまちづくり

教育問題

2014/03/17

園部 増治

＜平成26年第1回定例会一般質問＞

13番議員、真政会の園部増治です。議長のお許しをいただきましたので質問通告に従い「豪雪による被害と今後の対応について」「若者に選ばれるまちづくり」「教育問題」の3件について執行部のご所見を伺います。誠意ある答弁をお願いいたしまして質問に入ります。

まず初めに「豪雪による被害と今後の対応について」からお伺いいたします。本年は、2月に入ってから7日から8日にかけてと14日から15日にかけての2度にわたり記録的な大雪に見舞われました。2月20日の議会全員協議会におきまして、市内でもビニールハウスの倒壊や車庫の倒壊、倒木や除雪中に負傷された方もおられたということでご報告がありました。被害にあわれた皆様にはお見舞いを申し上げます。

特に今回の豪雪では、14日から15日にかけて、山梨県甲府市で114センチ、河口湖町でも143センチと過去の最深積雪を大幅に塗り替える積雪を記録し、関東地方でも秩父で93センチ、前橋73センチ、熊谷63センチ、宇都宮32センチといずれも過去最高の積雪を記録いたしました。空の便は欠航が相次ぎ、新幹線や在来線・バスなども運休や大幅な遅れが発生し、特に山梨県内では車が立ち往生するなどして交通網が大混乱、数日間にわたり孤立するなどの被害が発生いたしました。また、ビニールハウスや車庫が倒壊して下敷き、生き埋めになったり、凍死や除雪作業による過労死など9県で25名の方がなくなり、負傷者も1,000人を超えるなど大きな被害となりました。

市内におきましても、ビニールハウスの倒壊や車庫の倒壊、倒木などの被害が数多く見られました。ビニールハウスの中には農作物が作付されていたハウス、苗が入っていたハウス、これから稲の育苗に使う予定のハウスなどもあり、私も農業をしておりますので、つぶされてしまった人の気持ちを思うと他人ごとではありません。先日の議会全員協議会でご報告をいただきましたが、その

後、農業用施設の被害状況について取りまとめをいただいておりますので最新の状況についてお伺いいたします。また、その他車庫の倒壊や倒木・停電などの状況、さらに道路交通への影響についてもお伺いいたします。今後の支援策等については2回目でお伺いいたします。

次に「若者に選ばれるまちづくり」についてお伺いいたします。

本定例会冒頭の市長の施政方針の中にもありましたが、「私の目指す行政は、若者に選ばれるまちづくりです。そして本年度は、将来を見据えた新しいまちづくりを念頭に、活力ある住みよい古河市の実現に向けて、その第1歩を踏み出す年になるよう改めて決意をしております。また、中長期的な視点から将来をしっかりと見通し、次代へ繋ぐということを考えた計画としてまいります。」と述べられております。

そのような観点から、今回は、都市基盤の整備についての考え方を伺いいたします。まず、市長の考える「将来を見据えた都市計画のビジョンについて」どのような将来構想を考えているのかをお伺いいたします。

本定例会には「新市建設計画の変更に関する議案」が提案されておりますが、東日本大震災を受けて災害に対する対応が追加されただけで、基本的な部分は、変わっていないということでもあります。先導的プロジェクトも引き続き継承されることとなりますが、どのような考えかをお伺いいたします。

特に先導的プロジェクトの中の「南古河駅の設置」につきましては若者の多くが望んでいるところでありますので、早期実現に向けて取り組んでいただきたいと願っているところであります。先日、副市長を先頭にJRに陳情に出向かれたということでもありますので、その内容についてお伺いいたします。

3点目は、「国道354号線及び自衛隊引き込み線等の交通渋滞の解消について」であります。今年の正月に地元の町内会の新年会に招待されましたが、どの町内でも「国道354号線と自衛隊引き込み線が渋滞していて困る。何と

かして下さい。」という意見が多くありました。国道354号線は通過交通と生活道路が重なっているために慢性的に交通渋滞が起きており、普段の生活にも大きな影響があります。また、自衛隊引き込み線も特に朝晩の通勤時間帯には、信号を3回ぐらい待たなければ通過することができないような状況であります。交通渋滞の解消に向けて早急に取り組んでいただきたいと考えておりますが、どのような取り組みをしていくか、お伺いいたします。

次に、教育問題についてお伺いいたします。2月20日の議会全員協議会におきまして、「小中一貫教育の推進について」ということで佐川教育長からご報告がありました。中1ギャップをなくし、義務教育9年間を見通した学習指導や生徒指導を実現できるのが「小中一貫教育」の狙いであるということですが、急に出てきた話で戸惑いもあります。

先日いただいた資料の中には、古河市における実践方法ということで「基本的には1つの中学校と複数の小学校間で考えられる小中一貫教育であり、古河市のすべての学校において実施可能である。現行の学区の見直し等も、やがては行わなければならない。」と書かれておりますので保護者の皆様も戸惑うのではなからうかと考えております。

そこでもう1度お伺いいたしますが、

1. 小中一貫教育とは、どのような教育ですか。
2. なぜ、小中一貫教育に取り組むのですか。
3. 小中連携と小中一貫教育の違いはどのようなことですか。
4. 古河市ではどのような体制で進めていきますか。
5. 「中1ギャップ」はなぜ発生するのですか。古河市では、どのような状況ですか。
6. 学校が離れている場合、子どもたちや先生の交流が大変だと思いますが、どのように考えていますか。

7. 各中学校において特徴ある取り組みをするということですが、例えばどのような取り組みになりますか。

以上7点について、お伺いいたします。

教育問題2件目は、通学路の安全についてであります。平成24年に通学路の総点検を実施しておりますが、点検で指摘された点はどのようなところですか。改善された点はありますか。また、今後改善しなければならない点がありましたらお伺いをいたしまして1回目の質問を終わります。

【2回目】

それでは、自席より2回目の質問をさせていただきます。

「豪雪による被害の市内の状況について」お伺いをいたしました。記録的な大雪から1か月たった3月14日NHKのニュースでも報道されておりましたが、農業用のハウスが倒壊するなど農業関連の被害は、関東甲信の1都8県で1100億円に上ることが報道されておりました。

特に被害額が大きいのは群馬県の424億4000万円、次いで埼玉県229億円、山梨県171億7300万円、栃木県142億8684万円、長野県54億円、神奈川県34億円、茨城で27億1249万円、千葉県で24億円、東京都で約5億円の被害となっています。ハウスの倒壊とともに中に入っていたきゅうり、トマト、イチゴ、ホウレンソウ、ブドウなどが大きな被害を受けました。大雪の被害を受けて、国では、農業用ハウスを立て直す場合の費用を補助する割合を最大で30%から50%に引き上げ、また、撤去する費用も農家負担をゼロにすることを決めたということでもあります。

県でも災害対策特別措置条例による低利融資や薬剤などの購入費を補助するほか、農協から融資を受けた場合に、市町村とともに利子助成などの支援を行うということですが、市としても農業を営んでいる人が意欲を失わない

ような支援策を打ち出してほしいと考えておりますが、ご所見をお伺いいたします。

また、古河市の防災計画の中に豪雪災害に対する項目がありませんが、これまでこのような豪雪による被害が想定されていなかったからであろうかと思いますが、これからは、いつ起こるかわかりませんので、豪雪災害に対するマニュアルも盛り込んでいただきますようお願いをいたします。

次に、「若者に選ばれるまちづくりについて」であります。都市計画の将来ビジョンについてお伺いをいたしました。

施政方針の中の「私の目指す行政は、若者に選ばれるまちづくりです。」そして本年度は、将来を見据えた新しいまちづくりを念頭に、活力ある古河市の実現に向けて、その第1歩を踏み出す年になるよう改めて決意をしております。また、中長期的な視点から将来を見通し、次代へ繋ぐということを考えた計画にしていきたい。」ということですが、代表質問や新年度予算を見ても、本当に若者に選ばれるまちづくりになるのか、次代に繋ぐという計画になるのか多少疑問を感じるころであります。新年度予算を見ますと

- 子育て支援ということで、古河駅西口に複合施設を作るための基本構想、基本計画を立てること
- 古河総合公園に、子育て広場を作ること
- 18歳までの医療費の無料化をすること
- 教室にエアコンを設置すること
- 中学校の吹奏楽部の楽器を買ってやること
- 中学校にT・T教員を18人増員すること
- ネーブルパークにSLを走らせること

このような内容が盛り込まれているわけですが、これだけでは本当に若者に選ばれるまちづくりになるのでしょうか。

ソフト面での充実ということはわかりますが、その裏付けとなる財源確保ということを考えなくてはならないと思います。ソフト面と合わせて、将来、財源確保ができるような事業も進めていく必要があるのではないのでしょうか。そうしないと結局は、住民負担が大きくなってしまおうと考えます。

「若者に選ばれるまちづくり」を考えた場合、その一番早い近道は、この新市建設計画を着実に実行していくことであると思います。本定例会に新市建設計画の変更についての議案も提案されておりますが、分野別主要事業の中の第1に水と緑と共生した快適なまちづくり（都市基盤・生活環境）があげられています。紹介させていただきますが

【基本方向】朗読

【施策の方針】朗読

- (1)
- (2)
- (3) 以下は省略させていただきますが、

都市の軸となる道路網の整備、そしてそれと合わせて茨城県の西の玄関口となるような快適で魅力ある都市空間を創り出していくことが、若者に選ばれるまちづくりに必ずつながるものと思います。

新駅ができれば、前回の定例会で落合議員さんが提案をしていただいたような中高一貫校などの高等教育機関の誘致にもつながってくると思われまじ、若者が集まるショッピングモールや映画館などの施設もできると思われまじ、良好な住環境の整備につながります。そしてこのような都市基盤の整備は、必ず将来の財源の確保につながってまいりますので、ぜひ早急に取り組んでいただきたいと考えるものでありますが、ご所見をお伺いいたします。

また、陸川副市長にはJRへの陳情に出向いていただきまして大変ありがと

うございました。新駅設置に向けて、これからどのようにしていけば早期に実現できると考えますか、ご所見をお伺いいたします。

さらに国道354号線及び自衛隊引き込み線の渋滞解消についてであります。自衛隊引き込み線の渋滞解消につきましては、桜町・上辺見線の国道4号線交差点部分の早期開通に向けて取り組んでいただきたいと思います。さらに国道354号線であります。信号機調整等をしていただいておりますが、車の絶対量が多いので、抜本的には、新しい道路を早く作る他はないと思います。柳橋北交差点から旧4号線まで筑西幹線道路の延伸が計画されておりますが、渋滞解消の切り札になると思いますので、早急に取り組んでいただきたいと思います。

次に、教育問題についてご答弁をいただきました。小中一貫教育につきましては、代表質問でも取り上げられましたが「現行の学区の見直し等もやがて行わなければならない。」といきなり書かれておりますと保護者の皆様も戸惑ってしまうと思いますので、保護者の皆様にもよく理解が得られるように進めていただきたいと思います。また、つくば市におきましては、目指す子供たちの姿を「自ら学び、自ら考え、自ら判断する」子供の育成を目指して、小中一貫教育が推進されておりますが古河市においても「目指す子供の姿」を示して進めていただければよいのではなかろうかと考えます。

さらに、通学路についてであります。小学校においては42カ所中残り7カ所、中学校では16カ所中約半分が対応済みということですが、まだ残っているところは、道路の改良等が伴うところが多いので時間がかかるということですが、道路の新設改良に当たっては、庁内で十分に協議をいただきまして、総点検において指摘されている通学路を優先して整備していただきますようお願いをいたしまして2回目の質問といたします。

【3回目】

それでは3回目の質問をいたします。豪雪被害に対する支援策についてお伺いいたしました。被害状況等も把握できてきていることと思いますので、ぜひそれぞれの農家に対しまして、例えば撤去に要する費用は全額出ます。建て替える場合は、50%出ますのでこのように申請して下さいというように、きめ細かな対応をしていただくようお願いをいたします。また、今年の集中豪雨なども地球温暖化による異常気象といわれておりますが、集中豪雨だけでなくこれからは、豪雪ということも十分に想定することができますので、豪雪に対するマニュアルも防災計画に盛り込んでいただきまして、有事の際には対応が遅れることの無いように取り組んでいただきたいと思いますと考えております。

2件目の「若者に選ばれるまちづくり」につきましては、陸川副市長におかれましては、JRへの陳情に行った時の感想、これからの取組みについて答弁をしていただきまして誠にありがとうございました。これからも提言・提案をしていただきますとともにご指導賜りますよう、よろしく願いいたします。

3件目の教育問題であります。つくば市で行われた小中一貫教育全国サミットにおきましても、全国各地から集まった多くの市町村の教育長さんが、学校・家庭・地域そして行政が絆を結んで進めることが重要であると申されております。信頼される行政、信頼される教育を目指して、慎重かつ丁寧な取り組みをしていただきますようお願いいたします。私の質問を終わります。